

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

7月下旬、連日続く猛暑で気象庁は、猛暑に関する異例の記者会見を開き「命の危険がある暑さ。災害と認識している」と表明。熱中症の症状による緊急

搬送が多発、多くの死亡報道が続いた。猛暑・猛暑の連呼は、精神面にも不快な思いを抱かせた。また豪雨で初めて「特定非常災害指定」が適用をされた西日本豪雨は、深刻な被害が広範囲にわた

り、特に河川関係の災害の脅威が強く心に突き刺さった。同日しく開催された平川・松川砂防工事促進期成同盟総会に副会長

の職にあるため出席する機会があった。総会では、急峻で脆弱な平川・松川・上流域の深層崩落対策の促進、松川流域の緊急対応箇所での直轄砂防事業の導入、姫川との合

流点の整備事業促進など、安心して暮らせる地域づくりの要望内容が承認され、直ちに国土交通省に要望書が手渡された。引き続き開催された講演会は、4月着任し

土木研究所つくば中央研究所土砂管理研究グループ上席研究員、砂防土木の最前線の研究を学んでの着任だ。講演では、最近10年間の土砂災害発生や被害件数の推移、この7月の

今回の災害時に、撮影された平川・松川・流域の航空写真では、平成30年度だけでも信濃川・上流と姫川水系の砂防事業が継続で24カ所、新規4カ所、事業費で約44億円投じら

脆弱な山岳地帯を抱える地域として 砂防事業の大切さを再確認する

た国土交通省・北陸地方整備局・松本砂防事務所長の石田孝司さんの「砂防事業に関する最近の話題」を聴講する。元首相の小泉純一郎さんの若き頃を彷彿させる雰囲気、前任地は、国立研究開発法人

広い範囲で断続的に非常に激しい雨による土砂災害発生状況が報告された。報道では、多くを取り上げられなかった砂防堰堤が土石流を捕捉した効果事例も確認する事ができた。

も、激流と二緒に流れる大岩の激突する音は忘れる事はできないし、度々出勤して災害対応する父の消防団活動を心配しながら見ているだけだった苦い思い出からして、異常気象が多発しても、砂防事業等で守られる地域がどんなに有難いか、今一度考えるべきなのだろう。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



南股上流の砂防工事現場、人里離れた現場で携わる関係者の安全を願うばかりだ